

すてきなあなたへ

編集 佐倉市宮ノ台女性井戸端会議

発行 佐倉市宮ノ台4-26-8 tel & fax043-461-7004

町の名前、こんな風に決まるんだ～「ユーカリが丘」って、どこまで？！

町名の変更はどのようになされるのか

井野東土地区画整理組合の事業期間が3年間延長になったのは、前号でもお知らせした。今回の開発地区の、宮ノ台5丁目と4丁目に挟まれた第2工区は、私の散歩コースでもある。知り合いに出会うと「ここは宮ノ台6丁目にでもなるのかしらね」などと話していた。昨年末には、「西ユーカリが丘〇〇街区」の看板を立てた1戸建ての工事が始まり、その内、販売センターもでき、間取りなどの建築概要の看板は「ユーカリが丘ビューガーデン」と書き換えられていた。すでに住まわれている家もある中、契約済・申込・商談中などの張り紙も見える。ここまでも「ユーカリが丘」というかな。今どきの住宅購入者は、町の名前などに惑わされはしないし、現地の住環境をシビアに検討したに違いないはずだ。

佐倉市のホームページをみると、1月29日「住居表示審議会」で、まさにこの区域の町名が議題になっていた。結論は次回4月16日の審議会でだすことになっていた。審議会の諮問を受けた後、市長が決定して市議会に報告する、という手順をとるそうだ。

4月16日の審議会は気になるものの、所用で傍聴できなかった。つい最近、その会議要録が公表されたので、審議会2回分を合わせて読んでみた。結論的にいえば、第1・2・3工区は、4月16日の委員による投票で「西ユーカリが丘」に決まった。マンションやマックスバリュが建っている第4工区はすったもんだの末、「北ユーカリが丘」案を抑えて「宮ノ台」に決定した。今後は、丁目や学区割りについて審議が続けられるという。

事務局が用意した5つの案

1月の審議会では、事務局がすでに「井野東地区町名変更」の五案を用意していた。

	第1・第2・第3工区	第4工区
①	西ユーカリが丘	北ユーカリが丘
②	宮ノ台7丁目・ユーカリが丘8丁目	宮ノ台6丁目
③	ユーカリが丘8丁目・9丁目	北ユーカリが丘
④	井野長割1丁目・2丁目	ユーカリが丘8丁目
⑤	西ユーカリが丘	宮ノ台(6丁目)

事務局は、①案は組合が実施した地権者160人へのアンケート調査の集計結果(回収率72%)なので参考にしてほしいといい、同様のアンケートを周辺住民全体に実施してはという意見に対しては、関心のない住民の無責任な回答が出かねないと答えている。委員からは、昔の地名を大事にすべきだとする意見も出ていた。私は 歴史的な地名を大切にするとともに、少なく

とも開発実績を踏まえながら、種々の意見の協議・調整するのが審議会の仕事だと考え、その際に周辺住民・自治会が発言できるチャンスは当然あるべきだと思っている。

①の組合案は、「ユウカリが丘」の知名度とブランド力？を強引に引出した感があり、他の案も「ユウカリが丘」にひきずられて、どこか不自然な組合せ案に思える。事務局提案の選択肢が恣意的にも思えたのだ。開発実績・町名定着度からいえば②案あたりが妥当かとも思う。昔からの字（あざ）名を重視すれば一部④案なのだが、井野本村を挟んだ第4工区がなぜ「ユウカリが丘」なのか分かりにくい。現在、第4工区にぽつんと残された八社大神だが、社を囲む里山一帯の小字名は「宮ノ台」で、現在の「宮ノ台」はそれに由来すると聞いたことがある。

地名研究が専門の委員からは、昔からの地名を大事にするという佐倉市の方針はご破算になったのか、ユウカリが丘は地名として違和感がある、という意見もでていた。また、ユウカリの木がたくさんあるわけでもないのにユウカリが丘と名付けたのは開発業者の営業のためではないか、経緯も知りたいが、井野1〜3丁目という案もある、などの疑問が出されていた。

性急な採決の中で

これらの5つの案について、委員は書面で意見を提出していて、4月審議会の冒頭で集計結果が事務局から発表された。多い順に、前回の①案「西ユウカリが丘・北ユウカリが丘」、「ユウカリが丘・宮ノ台」、「井野長割または井野を含んだ町名」、その他3名と発表。さらに、事務局から、前回の5つの案を本日、委員の無記名投票で行い、1位が過半数に達しない場合は、上位2位で決選投票とするという提案があった。それに先だって、採決方法について「挙手」か「投票」かについての議論の末、多数決で「投票」を採用した。投票結果は、第1回が①案7票、②案3票、④案3票、⑤案4票、白紙1票。どの案も過半数が取れず、第2回・第3回の投票でも、①案6票、⑤案8票、白紙3票は動かなかった。議長は白紙投票者の退席まで提案し、決着を急ぐ。さらに①⑤案共通の第1・2・3工区の「西ユウカリが丘」案は6+8票とカウントし、18人出席委員の過半数にあたる、として決定とした。残る第4工区を「宮ノ台」か「北ユウカリが丘」の決選とし、挙手の9対7で「宮ノ台」に決まった。

民主主義への道のりはまだまだ遠い

結果もさることながら、私は組合案に固執した委員名とその理由が知りたい。公的な審議会の採決にあたって、なぜ挙手や記名投票がなされないのか。挙手を忌避する理由が、傍聴人がいると地元代表委員の本音が出にくいというものだった。しかし、委員を引き受けた以上は、自らの名前で発言し、採決に参加するのは当然の責任と義務と思うのだが。これは、私がかつて公募委員として参加した情報公開審議会（現在は「個人情報保護審議会」と合併している）で、会議録の個々の委員の発言に委員名が明記されず、ただ「委員」しか記されていなかった。発言者名の明記を提案したが否決されたこと、何期にもわたる学識経験者委員と事務局がなれ合いのような場面が多々あったことなどを思い出す。住居表示審議会は、従来複数の担当の佐倉市職員が審議会メンバーになっていたが、今回の条例改正で改められた。これまでは、出題者が回答作成をするような状況を認めていたことになる。今後は、形式的にも実質的にも役人主導をどれほど拭えるのか、期待したい。(M)

菅沼正子の映画招待席 29

縞模様のパジャマの少年

—純粋な少年の心が戦争の狂気をあぶりだす—

ピピが出てきそうな可愛らしいタイトルだが、待って、〈縞模様のパジャマ〉——よく考えてみると、チャプリンの映画にもあったような気がするが、そう、それは囚人服ではないか。衝撃！これは少年の視線から見たホロコースト映画なのだ。原作は世界35カ国で翻訳されている同名の小説（ジョン・ボイン作、岩波書店刊）。

第2次世界大戦中のベルリン。街角で少年たちは戦争ごっこに興じる日々が楽しい。主人公の少年ブルーノ（エイサ・バターフィールド）の父親（デヴィッド・シューリス）は軍人。收容所所長への昇進が決まってベルリンを去ることになり、お別れと昇進祝いのパーティが盛大に行われる。人々に祝福される父親の姿は、8歳のブルーノにはまぶしいくらい。母親（ヴェラ・ファーマガ）はいかにも軍人の妻らしく背筋をピンと伸ばしパーティを仕切る。だがブルーノは友だちと会えなくなるのが悲しい。

引っ越してきたところは、あんのじょう殺風景な田舎。近所には家々もないから友だちもない。母親から近所の探索は禁じられているから、退屈でしかたない。自分の部屋から外を見渡していると、森のそのずっと向こうに〈農場〉が見え、人々が働いている。好奇心旺盛なブルーノは母の目を盗んで裏庭を抜け森の探検に出かける。そこは、頑丈な有刺鉄線の高いフェンスがはりめぐらされていて、人々はみんな同じ縞模様のパジャマを着ている。フェンスの近くに生気のない少年がいて、それでもブルーノは彼が同じくらいの年齢だからうれしくなり声をかける。「ぼくブルーノ、君の名前は？」「昼間なのに、どうしてパジャマ着てるの？」——こうして2人の少年は鉄条網をはさんだ向こうとこちら側で、友情をはぐくんでいく。ブルーノはパジャマの少年から、いろいろのことを聞いた。ユダヤ人だからここに入れられ、父親はここに来てから行方不明になった、いつもお腹がすいてる、人々には番号がついている……。

ブルーノは家庭教師に尋ねる。「どうしてユダヤ人はフェンスの中なの？」「ユダヤ人は悪い人だから」と教えられても理解できない。パジャマの少年とはとっても仲良しになったし、家でじゃがいもの皮むきを手伝ってくれるパジャマのおじさんも親切だ。ブルーノがぶらんこから落ちて九死に一生を得たのも、元医師のパジャマおじさんのおかげだ。「僕もパジャマ着てそちら側で遊びたい」というブルーノは、ユダヤ人少年が調達した縞模様のパジャマに着替えフェンスの中に入って行く。その後は歴史で知られている通りだが、このラストシーンの衝撃！奇跡が起こりますようにと祈りながらも、胸はえぐられる。監督はイギリス人のマーク・ハーマン。ダイアログが英語であることに違和感を覚えるが、ドラマにのめりこんでいくうちに慣れてくる。

この映画のもうひとつの見どころは、少年をとりまく登場人物のキャラクターづくり。ほんとうにここに登場する彼らドイツ人たちは、どっぷりナチス党だったのだろうか。いや、私にはそうは思えない。時代の狂気に翻弄された悲劇な人々でもあるのだ。狂気の政権下で、軍人という職業を得、忠実に職務を遂行していく。その彼らの心の重みがしっかり描かれているから、ただ息をのむばかりだ。（8月8日～恵比寿ガーデンシネマ、角川シネマ新宿ほかにて）

10人に直撃！近くにスーパーができました

4月24日にモノレール・中学校駅前にマックスバリュがオープンしてはや3か月が経ちました。私は、週に1・2度、買い物に行きますが、一人や二人、必ず知りあいやご無沙汰している友人に出会える大切な場所です。7月に入っての立ち話ですが、こんな感想を聞かせてくれました。断りがない限り宮ノ台在住の女性です。お店には率直な感想や注文を寄せることが大事だと思います。

- ① **在住22年：** スーパーが近くにできたので助かっている。長続きして欲しいので、毎日来るようにしている。 薬屋さんもあって安心。
- ② **在住13年：** 自家製のジュースを毎日飲んでいるので、りんごを袋で買った。割っても割っても傷んでいたことがあり、2回ほど替えてもらった。夕方の値下げもレジで徹底しない。
- ③ **在住20年、夫婦2人：** 規模からいって、品ぞろえが期待できない。まだ、一度も出かけていない。オーケーか八千代のフルルあるいは幕張まで出かけることが多い。
- ④ **在住15年：** 歩いていける距離なのだが、車が出たついでにサティなどへ立ち寄ることが多い。同居の母は週に1・2度出かけているようだ。
- ⑤ **在住20年、夫婦2人：** 基本的には、生鮮食品も生協でまかなっているので、間に合わせに、玉ねぎ1個、卵4個、モヤシなどを買いに走る。夜8時過ぎになると、医薬品のコーナーは薬剤師がいないからと、棚に白い布がかけられてしまうのが不安だ。
- ⑥ **在住20年、男性、夫婦2人：** 2・3回弁当を買いに入ったけれど、やや平凡。でも、やっぱり長続きして欲しい。 24時間営業は必要と思えない。
- ⑦ **在住22年、夫婦2人：** 近くにスーパーができてよかった、続いてほしい。生協は、二人暮らしには、量が多いので止めたところ。
- ⑧ **在住22年、親子2人：** 子供は仕事の関係で、ほとんど家で食事をしないので、生協を止めた。店は時々利用しているが、ATMで用をすまして帰ることもある。
- ⑨ **もと在住：** オーケーや生協の店を使い慣れているので、キャベツ150円、トマト1個96円はいかにも高い。隣接の店もテナントが入らないのはさびしい。
- ⑩ **在住18年、親子3人：** 何よりATMが助かっている。休日のまとめ買いは別の店という友人も多い。週1・2度入る程度。パンなどもうひと工夫が欲しい。

第2回ラベンダーまつりへ

先崎のラベンダー畑、6月1日、友人に誘われ、初めて訪ねてみた。「濃紫早咲(3号)」というのが、ちょうど見ごろで、管理人さんの話だと、約7000㎡に5000株の管理は苦労も多いようだ。6月中旬のラベンダーまつりは、今年が2回目。「おかむらさき」もこれからだし、「グロツソ」という品種は、6月下旬から7月まで楽しめるそうだ。

6月12日、まつりの初日、今度は歩いて出かけたが、宮ノ台からは20分以上はかかった。模擬店もにぎわい、ラベンダーも、紫色の花穂がいつそう鮮やかになっていた。ラベンダーの苗・花のコーナーには、なんとご近所の方がいらして、まつり実行委員のお手伝いをしているとのことだった。私は香りの高い「おかむらさき」の一束を買った。ウォーキングには、手ごろな距離でもある。また、来年も訪ねてみよう。

すてきなあなたへ

編集 佐倉市宮ノ台女性井戸端会議

発行 佐倉市宮ノ台4-26-8 tel & fax043-461-7004

自転車でゆくロマンティック街道

昨年6月、以前から憧れていたロマンティック街道に行くことになり、いろいろ調べるうちに、「車の道」の他に「自転車道」もあることを知った。夫がインターネットで調べてみると、全行程を自転車で行った人たちの記録もあったが、それはとても無理。一部でも自転車で行かれないかと更に調べると、ドイチェ・ツーリング社が、パーソナル・ツアーの企画をやっていることがわかった。貸自転車の手配、荷物の運搬、ホテルの予約をしてくれる。自転車は最終地点のホテルで乗り捨てることができる。これならなんとか実現できそうだ。インターネットで何回かやりとりをして、ヴェルツブルグからローテンブルグまで2泊3日のツアーを組んでもらった。

初日は様子も分からないので無理せず行こうと、途中まで電車で行き、8kmほど走った。自転車ごと電車に乗れるのはうれしい。麦畑の広がる中を、体中で風を感じながら走る爽快さはなんとも言えない。私は日焼けを気にして、長そで長ズボン、帽子に手袋、サングラスという出で立ちであったが、すれ違う人には、私の姿が異様に映ららしい。じっとこちらをみる。向こうの人は半そで半ズボン。本格的にぴたっとしたパンツにヘルメットという人も多い。

2日目は、途中の街で博物館や教会を見ながら、23kmを走った。自転車マークの標識がわかり易く、行き交う人も結構いて迷うことなく安心した。

3日目は、35km+αを走った。タウバー川沿いや林と畑の間の道を走っていると佐倉のどこかを走っているような錯覚に陥る。クリクリンゲンにあるヘリゴット教会の美しいマリア祭壇（リーメンシュナイダー作の木彫り）を見て、さ一目指すはローテンブルグと出発したが、途中で自転車のマークがないことに気づく。どうやら道を間違えたらしい。しかし引き返すわけにもいかず、方角に間違いはないとひたすら走る。車道だがたまにしか車が来ないので助かった。キャンプ場で出会った人に自転車道の入口を教えてもらう。ロマンティック街道ではないサイクリングロードだったがひと安心。麦、トウモロコシ、菜種、ジャガイモの畑がどこまでも続く中をくねくねと上ったり下ったり。時々風力発電の風車やソーラーパネルを見かける。通り抜ける街の家々の庭にはバラや色とりどりの花が咲き乱れ美しい。人家もなく、人にも全く会わず、こんなところで自転車がパンクしたらどうしようと少々不安になることも。いよいよ、はるか上方にローテンブルグが見えてきた。迂回しながら上り、やっと城壁の門へ。やったーという満足感でいっぱいだった。

ドイツでは、サイクリングがスポーツとして定着しているようで、若いも若きも、車に自転車を積んで自転車道の入口まで行き、サイクリングを楽しんでいるようである。 (KH)

井野東開発、組合解散は3年先？

～景気がわるいときの公的資金だのみ、なんだかなあ～

区画整理組合の解散は3年延期

宮ノ台の緑を虫が食い荒らすように開発は進められてきた。私の住いに近い、雑木林だった高台では、周辺の地区計画では許されない、敷地 40 坪ほどの小さい戸建が建ち始めた。モノレール中学校駅の内側では、14 階のマンションとスーパーが入る商業ビルの工事が進んでいる。マンションの外廊下の照明が灯されると、住宅街の真ん中に「なぜ」と思うような異様な光景が展開される。これらの街区を含む約 50 区画は、山万が業務代行となって井野東土地区画整理組合によって開発が進められている。2002 年 7 月認可された井野東土地区画整理組合の事業計画によれば、当初、今年 3 月には都市計画道路も完成し、組合も解散の予定だった。しかし、1.5 キロほどの都市計画道路もその予定地はつながったものの、青菅側の端には、まだ梨園の半分が残っており、道路の基礎工事の方はまったくの手つかず。地権者への換地、保留地の売却、借金返済、精算・解散の計画も、この不況下では難航しているのだろう。組合の話では、事業期間をもう 3 年延長し、現在、組合と行政（千葉県・佐倉市）との事前協議を進めているという。近く、事業計画変更にかかる縦覧が始まる。

行政は市民の意見を聴くふりをするのだが～

組合の認可以来、事業計画の変更は、今回で 3 回目になる。1 回目変更では、認可から 1 年もたない 2003 年 4 月事業費約 162 億を 90 億に大幅な圧縮をした。土地の価格の下落は止まらず、保留地処分価格を 105,875 円/㎡を 55,206 円/㎡としたため、工事費を 137 億から 75 億に落とさねばならなくなったのだ。

2 回目の変更は、2005 年 4 月井野長割遺跡 (23,000 ㎡) が「国の史跡指定」になって、その保存のために道路・公園・調整池などの配置を変更しなければならなくなったからだ。

今回の 3 回目の変更は、事業期間の延長だけかと思ったら、なんと、佐倉市条例の 3 分の 1 条項をはずして、市は 5,700 万円を組合に助成金を交付したこと（本誌 45 号 2006 年 3 月参照、不動産業者が 3 分の 1 以上所有している組合事業には助成しないという制限をなくした）、また佐倉市が約 6 億 7 千万円 (33,200 円/㎡×20,400 ㎡) で井野長割遺跡を買上げていること（本誌 51 号 2007 年 6 月参照）も記されている。これら 2 件はすでに予算執行済みでもあるのだが、縦覧（市民への関係情報閲覧公開）の対象とされ、関係市民は意見を提出できるというものだ。

これまでも、井野東開発については、都市計画法に基づく縦覧や意見提出、公述の機会があった。2000 年 8 月の佐倉市の都市計画変更一市街化区域区分（線引き）見直し素案の公開以来、私も、これらの縦覧・公述、意見提出などに何回となく付き合ってきた。そのつど、味わう徒労感にさいなまれながら、少しでも暮らしやすい住環境を守りたいという思いが先にたち、諦めたくはなかったからだ。しかし、市民の素朴な疑問や意見に耳を傾けず、形だけの役に立たない縦覧制度や公述制度がまかり通っている。たとえば、都市計画道路予定地の買収金（公共施設管理者負担金）、助成金、遺跡買い上げ価格の算出基準なんて実はずさんで、事業者の言いなりのこともある、ということを知ってしまったのだ。私たちの税金が適切に使われるためにも、目は離せない。 (M)

菅沼正子の映画招待席 28

チェ「28歳の革命」「39歳別れの手紙」

—チェ・ゲバラという人間の内面にせまる—

監督スティーヴン・ソダーバーグ、主演ベニチオ・デル・トロといえば、麻薬問題を扱った「トラフィック」で、あらゆる賞を総ナメにして話題になったコンビ。その2人が今回挑むのは、革命のシンボル、チェ・ゲバラ（1928～1967）後半生の伝記物語。第1部「28歳の革命」、第2部「39歳 別れの手紙」。合わせると4時間半の長編のためか、公開は別々だが、これは両方一気に見た方がいい。全く飽きさせない超重量級の人間ドラマだ。

アルゼンチン生まれのゲバラが、フィデル・カストロと出会いキューバ革命を成功させるまでが第1部。第2部はカストロに別れを告げ、ボリビアで反政府運動に身を投じ、政府軍に捕らえられ銃殺までを描いている。

始めから余談になるが、ロバート・レッドフォードが製作総指揮で描いた「モーターサイクル・ダイアリーズ」（2004年）を見れば、彼がなぜ革命の道へと進んだのかが、実によく理解できる。裕福な家庭に生まれた医学生のゲバラが、アルゼンチン、チリ、ペルー、コロンビア、ベネズエラをバイク旅行する青春日記だが、行程1万キロにも及ぶこの旅のなかで、彼は圧政に苦しむ農民たちの貧しい現実を見たのだ。ひどい世の中だ、という思いを抱えたゲバラの青春像が印象的だ。

で、「チェ」2部作に話を戻すと、「28歳の革命」は64年の国連でのスピーチ（この部分はモノクロ映像）を中心に、時系列をバラバラにして物語は進んでいく。マルクス主義に傾倒するゲバラ（ベニチオ・デル・トロ）が、カストロと出会い、持病のぜんそくに苦しみながら、情熱と肉体だけを武器に革命に立ち上がり、どのようにしてバチスタ政権を転覆させたのか、その軌跡をゲバラの1人称で語る。モノクロ映像のスピーチはいかにも現存のドキュメント・フィルムのように見えるが、実は全部フェイク・ドキュメント。インタビューに答えて彼は言う「真の革命は愛という偉大な感情によって導かれる」。

「39歳 別れの手紙」は、カストロの陰の実力者でキューバの要職についたゲバラだが、すべてを投げ捨てて単身ボリビアに潜入、解放戦線を展開していく。こちらは時間軸そのままの進行で、ゲバラの目線で描く。地形の悪さ、ボリビア共産党の裏切り、農民たちの疑念などからゲバラは孤立無援になり、ついに政府軍に捕らえられる。それでも彼は自らの信じる理想の旗を降ろすことなく「人は神を信じるが私は人間を信じる」と、兵士が見張りをたじろぐほど。その不屈な精神で高貴な理想を実現させようとしたチェ・ゲバラ、享年39。何発かの銃声だけで葬送の音楽が静かに流れると、思わず合掌したくなる。製作にもたずさわり、ゲバラを演じたベニチオ・デル・トロの意気込みがすごい。まるでゲバラに同化したような熱演でベニチオの独壇場だ。

「28歳の革命」は1月10日公開、「39歳 別れの手紙」は1月31日公開。

「山川惣治展」～佐倉市立美術館、2月7日から開催

1990年代の初めころだったか、宮ノ台の空き店舗で、佐倉市にお住まいの画家、高橋真琴さんと山川惣治さんの二人展が開催されたことがある。地元の方の肝いりだったと聞いている。高橋さんは、あのキラリと星の光る瞳の少女を描き、いまでも志津に画廊をお持ちの現役である。山川さんは、昭和20年代の子どもたちをわかせた「少年王者」「少年ケニヤ」の作者でもあった。二人展のとき、山川さんは会場にいらして、似顔絵やペットの絵を描いてくださるコーナーもあったのだが、私は気恥ずかしさから素通りしたものだ。山川さんはその後間もなく故人とされたが、散歩の途中、かつてのお住まいの表札「山川惣治」に自然と目が行くのだった。しばらく前から表札もなくなり、空き家になってしまったのがさびしい。その「山川惣治展—少年王者、少年ケニヤがいた昭和」が、この2月7日（～3月22日）から、佐倉市立美術館で開催される。昨春、東京の弥生美術館で開催された以降の成果も踏まえた規模になるという。たまには、レトロな建物の市立美術館へ出かけてみてはいかが。新鮮な卵を使ったカフェのプリンもなかなか好評のようだ。



ご近所の・ホームページ・ブログ へどうぞ☆

手っ取り早くは、佐倉市ホームページのリンク集を見てもよい。「リンク先の情報にはいっさい責任が持てません」とのお役所らしいコメントがある。私の「お気に入り」には、「しづのまらづくり」がある。近所の散策には欠かせない情報や写真が満載で、本誌でもたびたび登場する井野東開発の過程を記録する写真もある。近くの自治会で立ち上げたホームページ（HP）もあるが（「ユーカリが丘1丁目自治会」）、つねに新しい情報を更新している「ようこそわが町＜上志津原＞へ」は、この街の成り立ちまで遡る。町内会の「上志津原たより」や掲示板「井戸端会議」も活発で、管理人の努力に敬意を表したい。その他、私は「志津散策の会」「旧成田街道を歩く」「佐倉市染井野へようこそ」「佐倉市臼井地区紹介」もときどき覗く。染井野のHPでは、1990年代からの開発からイトーヨーカドーの閉店までがたくさんの写真でも示される。市のリンク集には、スポーツサークルや日記、旅行、美術、写真、歴史、農業、ペットなどをテーマとするサークルや個人のブログなどが紹介されている。市立図書館のHPでは所蔵調査もできるが、「さくらブックお届け便」（パソコンやケータイから5冊390円で貸借ができる）や市内の文学碑案内があったりする。業者発信の情報だけでなく、ユーカリが丘・宮ノ台の住民からの発信が活発になればと思う。いろいろ検索しているうちに、思いかけない身近な情報やご近所の方のブログを発見できるかもしれない。

—編集後記— KHさん、ご寄稿を快くお引き受けくださり、ありがとうございます。日頃、自転車でユーカリの街を走り抜けている方です。一味違う＜地球の歩き方＞をご紹介します。